

ルールの一部改訂に伴い、ルールブックの改訂を行いました。

今回の主な改訂については以下のとおりです。

日本ファミリーバドミントン協会競技規則

第8章 ト ス

第19条 両サイドは、プレーを始める前にトスを行い、トスに勝ったサイドがサーブ権またはコートの中から選択することができる。トスに負けたサイドは、選択されなかった方を選ぶことができる。



両サイドは、プレーを始める前にトスを行い、トスに勝ったサイドがサーブ権またはコートのエンドの中から選択することができる。トスに負けたサイドは、選択されなかった方を選ぶことができる。

第10章 スコア

第24条 試合は、2セット先取の3セットマッチで行う。



試合は、1セット15点2セット先取の3セットマッチで行う。

または、時間制（以下、タイムアップ制）を導入することもできる。

第26条 15点を先取したサイドが、そのセットでの勝者となる。セットの勝者は、次のセットで最初のサーブ権を得る。



15点を先取したサイドが、そのセットでの勝者となる。セットの勝者は、次のセットで最初のサーブ権を得る。

タイムアップ制の場合は、ラリー中であっても設定時間が経過した時点でラリーを止め、そのセットを終了とし、得点の多いサイドがそのセットの勝者となる。同点の時はそのまま同点とし、そのセットを終了とする。

同点でセットを終えた時は、前セット開始時のレシーブサイドがサーブ権を得る。

第11章 コートの交替 → エンドの交替

第30条 プレーヤーは、次の場合にコートを替える。

↓

プレーヤーは、次の場合にエンドを替える。

第31条 前条の規定どおりにコートを替えなかった場合は、気が付き次第、すみやかにコートを後退し、スコアはそのままとする。

↓

前条の規定どおりにエンドを替えなかった場合は、気が付き次第、速やかにエンドを交替し、スコアはそのままとする。

第14章 フォルト

第37条 3 インプレーでプレーヤーが、次の場合は「フォルト」となる。

- (2) ラケットまたは身体が少しでも相手コートを侵したとき。ただし、シャトルを打ったあとのラケットが、フォロー気味に出てしまうことはやむをえない。また、ネット際(下)に落ちてきたシャトルを後衛に上げるとき、ラケットの一部が出てしまうことはやむをえない。(オーバーネット)

↓

- (2) ラケットまたは身体が少しでも相手コートを侵したとき。ただし、シャトルを打ったあとのラケットが、出てしまうことはやむをえない。また、ネット際(下)に落ちてきたシャトルを後衛に上げるとき、ラケットの一部が出てしまうことはやむをえない。(オーバーネット)

※シャトルが自陣にある場合にラケットがネットを越えて打つ事はやむをえない。

日本ファミリーバドミントン協会公認審判員規定

第3章 主審及び副審の役割

第7条 (8)を追加

(8) タイムアップ制の場合、各試合および各セット毎にタイマーの動作を確認する。

日本ファミリーバドミントン協会公認審判員資格登録規定

第5章 手続き

第11条 「公認審判員資格登録申請書」を受理した本会は、資格登録を完了し、速やかに資格証を交付する。

↓

審判員資格検定会（受講料3,000円）を受験して合格した人は、直ちに所定の手続きにより、「公認審判員資格登録申請書」と下記の登録料を添えて本会に提出する。

(1) 第1種は、5,000円

(2) 第2種は、3,000円

(3) 第3種は、2,000円

「公認審判員資格登録申請書」を受理した本会は、資格登録を完了し、速やかに資格証を交付する。

審判員の任務と注意事項

主 審 ⑤を追加

タイムアップ制の場合、各試合および各セット毎にタイマーの動作を確認する。

副 審

① 主審からオーダー用紙・審判用紙・シャトルを受け取る。

↓

② 主審からオーダー用紙・審判用紙・シャトルを受け取る。

タイムアップ制の場合、主審と共にタイマーの動作を確認する。

附 則

この規定は、令和7年6月8日に改訂、令和7年10月1日から施行する。